

速報

ちょうこくじ 長谷寺横穴墓群 発掘調査 ☆その1☆



ふるさと展示室
キャラクター
あぶ
阿武クマさん

2026年5月28日発行
岩沼市ふるさと展示室
(市民図書館2階)
TEL: 0223-25-2302

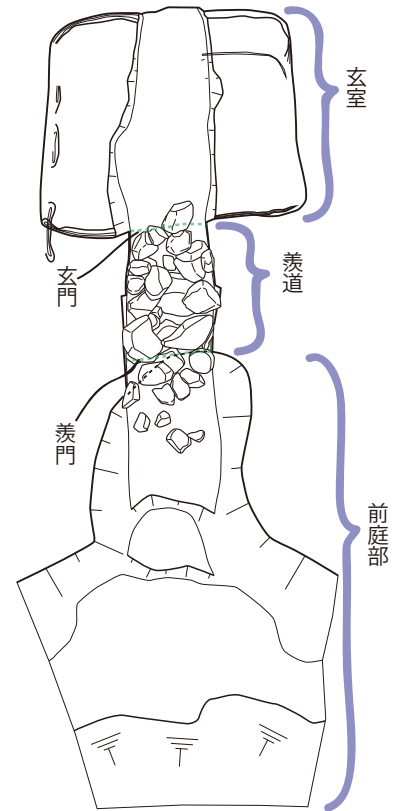
岩沼市内発掘調査が行われている「長谷寺横穴墓群」について「速報版」で情報をお知らせします。横穴墓は丘陵の斜面に穴を開け遺体を安置したお墓で、長谷寺横穴墓群は、7世紀中頃～8世紀前半頃につくられました。急傾斜地崩壊対策工事にともない令和8年4月より調査を開始し、現在A地区で見つかった横穴墓から調査しています。横穴墓を覆っていた表土を取り除いていくと土器などの遺物が見つかりました。

長谷寺横穴墓群のA地区の様子



黄色い矢印の先に横穴墓があります。A地区の斜面全体の表土を取り除く作業も同時に行われています。

横穴墓の構造



ぜんていぶ
前庭部…横穴墓の入口
せんもん せんどう
羨門…羨道の入口
げんしつ
羨道…入口から玄室までの通路
げんもん
玄門…玄室への入口。
ひつぎ あんち
玄室…棺に遺体を入れて安置する部屋

発見当時の横穴墓



大部分が表土でかくれていました。

前庭部から調査を進めていくと



入口の周りが大きく開くことができました。

前庭部の中央に須恵器の甕すえき かめが置いてありました。
甕の周りには、石や須恵器もありました。



底が丸い須恵器の甕を置いた時に安定するように、大きな石が甕の下に置かれていました。

同じく前庭部には左の写真のような須恵器の壺つぼがありました。口が割れていましたが、ほぼ完全な形で残っており、中には土が満杯に入っていました。また口の部分は土師器でふたをするようにふさがれていました。(写真の茶色に見える土器が土師器です)

20cm以上の大きさのある丸い形をした壺でした。



羨道おほを覆っていた表土を掘り下げると、大きな石が広範囲にわたって見つかりました。石の大きさは大小様々で、横穴墓がある斜面の凝灰岩の石も含まれていました。これは閉塞石へいそくしといって、簡単には玄室に入れなかったと考えられます。

横穴墓の羨道



*長谷寺横穴墓群については
岩沼文化財通信第45号
もぜひご覧ください。



これまでの通信
はこちらから！